

「京都を学ぶセミナー丹波編」第3回（開催報告）

平成30年7月11日
京都学・歴彩館
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」第3回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日 時 平成30年7月10日（火）18:30～20:00

■ 会 場 京都府立京都学・歴彩館小ホール

■ 参加者数 59名

■ 内 容
講 演 京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授 伊勢 武史 氏
「人はなぜ森で感動するのか」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

今回のセミナーは、新たな試みとして、昼間に就労している方にも参加頂けるように夜の時間帯で開催した。その狙いが的中し、夜にもかかわらず大変多くの参加者を得ることが出来た。今後も参加者帰宅の便を考慮に入れながら、夜時間帯でのセミナー開催を検討していく。

人は森に癒やしを求め、そして感動する。しかし、それと同時に森を不気味な存在として捉えることもある。森の多様性をどのように考えたら良いのか。セミナーでは外来種を使った生け花を例に、外来種を「悪者」と決めつけるのではなく、一つの「自然」と捉えることで外来種を使った生け花など新しい人と「自然」との関わり方の可能性があることなどを分かりやすくご講演いただいた。また、進化心理学の考え方に基づく人と森との関わりについて説明をいただいた。

参加者からは、「新しい視点で森を考えることが出来ました」「進化心理学の考え方がおもしろかったです。」「芦生の森にハイキングに行く予定です。見方が変わりそうです」などの感想が寄せられ、好評を博した。

